

どんな音が
するのかな

瓦の音楽会 & ワークショップ

2015年10月24日(土)

13:30-15:30

会場:三井寺・光浄院(兵庫県三木市) 真庭

兵庫県三木市 三木駅前

定員:大人50名 先着順

参加費:大人1,000円(小学生半額)

※このイベントには参加費です。

大人と一緒に参加ください。

主催:歴史まち大津の未来を考える会

企画:三井寺 NPO法人 真庭島アートセンター

協賛:大津市 大津市歴史文化委員会 真庭島

協賛:真庭島教育委員会 文化・経済フォーラム真庭

◎歴史まち大津の未来を考える会

本会は、豊かな自然環境と歴史文化資源を有する大津のまちを、市民参加型文化事業を推進するプラットフォームとして、考え、行動することにより歴史文化と生活の質を向上させること、地域活性化が図れるよう取り組むことを目的に活動しております。

大津市真庭島町240 三井寺中門内

T. 090-8178-7999 <http://okikoma.com/jp/>

申込み方法

「歴史まち大津の未来を考える会」の代表
三木市内077-522-2221または「ながしめ
の会」のホームページから申込みフォーム
(<http://www.nagashime.com/>)より、住所・
氏名(12歳以上の場合は年齢・性別)・連絡先
を記入の上お申込みください。
申込受付終了後は必ずお返事いたします。
メールアドレスをお知らせください。

瓦の音楽は大地と共鳴する音楽の原点だ

世界のどこにもない懐かしい音で

世界とつながれ 瓦の音楽———野村誠 やぶくみこ

瓦の音楽会によせて

「瓦の音楽」は、二人の音楽家(野村誠、やぶくみこ)とNPO真庭島アートセンターが、津市(真庭島の瓦の産地)を中心に各地で開催している音楽プロジェクトです。音楽は屋根の上に行っている瓦ですが、実は楽器になるのです。アクションを工夫し、慣性のマレットで叩くと、実に魅力的な音がします。まるで、お寺の鐘のように、アツカの本尊のようでもあり、インドネシアの民族楽器(ガムラン)のようでもあり、南米の太鼓のような音もします。また、瓦の鳴き具合などによって、音の高さも違って、複数の瓦を組み合わせて音階も作ることもできます。

これまでに、新聞、ラジオ、テレビ、読売花博、広島市立美術館、横浜市民ギャラリーあびる野、真庭島アートプロジェクトなどで紹介され、今年4月にCD「瓦の音楽 music gongery」が発売になるなど、「瓦の音楽」はムブーナ音楽として注目を集めてきました。1674年に西村平兵衛が枝瓦を考案した三井寺での演奏会では、これまでの「瓦の音楽」のエッセンスを凝縮し、真庭瓦(近江瓦をフル活用して、のし瓦、枝瓦、筒瓦瓦、側作瓦など、様々な瓦の音色の瓦の音楽をアレンジします。また、体験ワークショップでは、実際に瓦を演奏していただきます。リズム遊びをしながら、瓦太鼓を三井寺の境内に響かせましょう。

野村誠

野村誠 Makoto Nomura, composer/guitarist

作曲家、ギタリスト、94-97年、
プロジェクト・ミュージックの創
設者、神戸大学大学院で研
究、音楽プロジェクトで作品を
発表。04年度、NPO真庭島ア
ートセンター「音楽祭」の委
任で「あひる」を制作発表し、第
一回で「あひる」として「ヴェ
ーロ」の、現在、音楽イベント
「真庭島ミュージック・ア
ンダー」を主催し、「あひる」(津市太鼓)など多数。



やぶくみこ Kazuko Taba, composer/ percussionist

作曲家、打楽器奏者、文化庁美
術選定音楽芸術家制度により、
神戸大学大学院修了、インド
ネシアの民族音楽プロジェクト
でガムランを学ぶ。京都
ガムラン「スカーブアンズ」の
主宰、真庭島アートセンターの
企画で、野村誠と「瓦の音楽」を共同で、



三井寺・光浄院宮殿

真浄院宮殿は、三井寺の子院の一つで、寛永4
年(1627)に豊臣秀吉に命じて武蔵野三井寺の
惣でもあった高野山開創によって建立されし
た。室町時代の崩壊する「浄土宗」の代表的遺構
として指定に指定されています。約7層、総高
14間、総面積140坪弱で、瀬田地区に亘る中世
社会の宗教風情を写実化した建築空間を寓
しています。
瓦の音楽会の会場は、真浄院宮殿の境内にて行
います。

〔三井寺山内図〕



〒120-0004 大津市真庭島町246

TEL 077-522-2228

FAX 077-522-2220

<http://www.okigawa-middera.or.jp/>

※本会館は三井寺境内にあります。